

背景・課題

○盛岡市内小中学校の不登校児童生徒は、過去5年で小学校は2.7倍（R1:87人→R5:235人）、中学校は1.6倍（R1:227人→R5:359人）に増加。不登校出現の低年齢化。

○小中学校ともに、不登校の要因や背景が年々多様化しており、対応の困難さも増している。

○相談・支援を受けておらず、不登校が長期化している児童生徒に対し、必要な支援を行うことが重要。

対策

○不登校抑制の視点から、学校の風土づくりと学校の風土の「見える化」の取組など、「安心して学べる学校づくり」の充実を図る。

○関係機関代表を委員とする不登校対策委員会を組織し、連携体制を構築。

拡 人的支援や教育支援センター等を含む学びの場の拡充を図る。（〔指標〕:学校内外の機関等で相談・指導等を受けている児童生徒の割合〔盛岡市教育振興基本計画〕）

- 不登校児童生徒への対応や指導の在り方等の協議・情報共有
- 不登校対策委員会
 - 市小学校長会
 - 市中学校長会
 - 就学前教育施設長会
 - 市PTA連合会
 - 市医師会
 - スクールカウンセラー
 - スクールソーシャルワーカー
 - 児童福祉施設
 - 児童相談所
 - フリースクール
 - 教育相談事例研究会
 - 子ども未来部
 - 在学青少年指導員
 - 関係機関の代表により構成

学校の取組

不登校対策の充実・推進「不登校対策マニュアル（ver.3）」の活用

1 安心して学べる学校づくり

重 学校風土の「見える化」
児童生徒主体の授業
教育相談の充実

2 組織的な初期対応

小さなSOSにチーム学校で対応
ケース会議、関係機関との連携
保護者との情報共有

3 学びの継続支援

校内教育支援センターの充実
学校外の学びの場との連携
チーム学校による家庭環境支援

校内教育支援センター

重 自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間で自分にあったペースで学習・生活できる環境を学校内に設置。
設置校 小学校33校、中学校22校
(令和7年2月現在)

学校づくりの支援

- 担当指導主事による学校訪問
・「不登校対策マニュアル(ver.3)」の活用促進
・「不登校対策好事例集」の活用
・盛岡市学力向上推進事業「小学校学級経営」「小・中学校授業づくり」支援訪問
- 学校経営ヒアリング
・内容の一つとして、「不登校に係る取組について」を位置付ける（5月中旬～下旬）
- 教員研修の充実
・盛岡市教育研究所公開講座「不登校対策講座」「特別支援教育講座」「教育相談講座」
- 盛岡版アウトリーチ型支援
・盛岡市教育研究所の教育相談員等が学校訪問
・各校の不登校児童生徒の状況確認
・校内教育支援センターについて助言
・ケース会議への参加
・関係機関と連携しながら学びの場について検討
- 専門研究員による研究
・盛岡市教育研究所の専門員研究として「児童生徒の不登校対策に関する研究」を推進
※市内小・中学校の対応状況把握
※ひろばモリーオ、フリースクールの状況把握
- 研究発表大会での研究成果の普及・還元
日時：令和8年1月6日（火）
内容（不登校関連）
・専門研究員による研究〔再掲〕
・教育相談事例研究会による研究

支援体制の整備

対策チームによる継続的支援

いじめや不登校等の諸課題に対応するため、教育委員会内に指導主事等による対策チームを設置し、学校に対し組織的・継続的支援。

- 毎月の長欠報告による状況確認
・児童生徒の欠席状況を学校から市教育委員会へ報告。担当指導主事が電話等により、支援体制の在り方について指導・助言。
- 定期的なチーム会議による情報共有と対応

校内体制への人的支援

- スクールカウンセラー
小学校22校（41校中）、中学校22校（22校中）に配置
- スクールソーシャルワーカー
盛岡教育事務所のエリア型SSWと配置型SSWを活用
- 不登校対策相談員
中学校16校に15名配置
- スクールアシスタント：小・中学校に68名配置

個別相談会の実施（岩手大学との連携）

複雑な家庭環境や学校では対応困難と考えられる事例について、岩手大学教授が臨床心理学の見地から助言。

- ・年3回実施（予定）
- ・個別相談のケースについて、その後の対応の実際や経過について追跡し、場合に応じて支援を行う。

「教育相談室」での相談支援

盛岡市内の児童生徒、保護者、教職員及び市民の直面する様々な教育課題に関する相談を行い、その改善・解決を支援する。

- ・職員配置 教育相談室（教育相談員3名）
- ・相談方法 電話、来室、メール相談

学びの場の保障

教育支援センター「ひろばモリーオ」

- 目的
不登校児童生徒の社会的自立に向け、教育相談を行いながら、一人一人に応じた学習・生活等の適切な支援を行う。
- 設置教室及び職員配置数
(1) 青山教室（教育相談員1名、専門指導員2名）
(2) 仙北教室（教育相談員1名、専門指導員2名）
- 取組
・学校等へのアウトリーチ型支援。
・様々な体験活動を実施。
・両教室にWi-Fi環境を整備。
・高校見学、モリーオ見学会の実施。

家庭でのICT活用

- ・GIGA端末持ち帰り
運用の推進
- ・AI型ドリルの活用

いいきスクール

- 目的
様々な体験活動を通して、社会の中で自己実現していく力を高める。
- 参加者
盛岡市及び近郊市町の不登校児童生徒等
- 実施回数及び内容
年5回（農業体験、文化施設体験学習等）

「ひろばモリーオ」サテライト分室

- 目的
「ひろばモリーオ」青山教室・仙北教室や校内教育支援センターに通うことが困難な児童生徒の「居場所」の保障
- 設置教室（公民館等の社会教育施設）
中央公民館、松園地区公民館
西部公民館、見前地区公民館
- 支援体制
社会教育指導員兼専門支援員
教育相談員等による見守り

フリースクール等との連携

- 市教育委員会による訪問、情報共有
- 「連絡会議」に向けた情報収集
- 不登校対策委員会にフリースクール代表が参加
- 関連イベントの後援等